



12 式年御神幸

4月に雷神社(見広)が香取市の豊玉姫神社、東庄町の東大社とともに銚子へ神幸します。平安時代に銚子の海が荒れ、甚大な被害をもたらしたため、三社により海神の怒りを鎮めようと宣言が下ったのが起源と伝えられています。当初は毎年実施され、10回目からは20年ごとに執り行われています。

三社の神輿は小船木の神逢塚で合流した後、外川の浜へ向かいます。三社を先導するのが露払い役の弥勒三番叟(倉橋)で、沿道の各所に設けられた番所で「浜大漁、丘万作」を祈願して舞われます。

外川では、神輿が海へ入るお浜降りと海水をすくい取るお潮汲みが行われます。御神幸の核といえるもので、神の里帰りを象徴しており、怒りを鎮め、汚れを払い、豊穰を願っていると考えられます。

御祭神である豊玉姫神社の豊玉姫命は、東大社の玉依姫命と姉妹の關係にあり、ともに海にかかわります。雷神社も主祭神は天穂日命ですが、合祀される



▲倉橋の弥勒三番叟

別雷神は水とのかかわりが強いといえます。

幾年かに一度御神幸を執り行うことを式年御神幸と呼んでおり、市内ではほかに玉崎神社(飯岡:60年ごと)、熊野神社(清和乙:12年ごと)、内裏神社(泉川:33年ごと)、熊野神社(井戸野:33年ごと)、日月神社(駒込:33年ごと)、二玉姫神社(中谷里:33年ごと)などで、干支や祖霊信仰などのかかわりで執り行っています。いずれも、海あるいは海神とかかわりのある神社での神事で、地勢をよく反映した民俗行事といえます。